

日本アルメニア友好協会 第 35 回講演 2008 年 5 月

Էլիզաբեթ Թաջիրյան

「シルクロード上の交易都市ジュガ Jugha とアムステルダム

—資本移動と異文化交流—

講師：エリザベト・タジリヤン氏（アルメニア科学アカデミー）

5 月下旬、小会はアルメニアからエリザベト・タジリヤン女史（アルメニア科学アカデミー）を招いて標題の趣旨の講演をしていただきます。15～18 世紀、交易センターのジュガ（Jugha. ジュルファ Djoulfa）およびイスファハーンのノル・ジュルファを中心にして、東は中国・インドから西はオランダのアムステルダムにまでひろがったアルメニア交易商人のネットワークの具体的な姿、慣行、異文化交流等についてお話いただきます。

（アルメニア語=日本語通訳は、Melania Baghdasaryan）

日時・会場は次のとおりです。奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

5 月 25 日（日）仙台・東北学院大学「オープンリサーチセンター公開講演会」

（共催：日本アルメニア友好協会 協賛：東北大学国際文化研究科）

午後 2 時開演～4 時 於 東北大学川内キャンパス（川内郵便局向かい）M 棟 6 階

5 月 27 日（火）東京・東京大学「東洋文化研究所セミナー」

（共催：日本アルメニア友好協会）

☆当セミナーは公開です。 <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp>

午後 5：30 開場 6 時開演～8 時 於 東京大学東洋文化研究所大会議室

地図： http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_12_02_j.html

★ 午後 6 時に玄関の自動扉が閉まってしまうので、6 時に間に合わない方は予め右記にお知らせください。→ armenahit@yahoo.co.jp
中から係員がドアを開け、入場していただきます。

5 月 30 日（金）大阪・追手門学院大学「アジアの文化と社会を学ぶ - 公開セミナー」

（共催：日本アルメニア友好協会）午後 3 時～4 時 30 分 於 5 号館 5201 教室

=====

日本アルメニア友好協会

Japan Armenia Friendship Association

armenahit@yahoo.co.jp

=====

ホームページ「アルメニアへようこそ」 URL： <http://armenia.la.coocan.jp>

Էլիզաբեթ Թաջիրյան エリザベト・タジリヤン氏 ご紹介

1955年5月19日生まれ

1979 年 国立イエレヴァン大学言語学部卒業

1980 年 アルメニア科学アカデミー歴史研究所所属

1981 年 同研究所「アルメニア人居留地の歴史」部所属

研究課題；

17～18 世紀におけるオランダのアルメニア人居留地

欧州の史料による 17～18 世紀のノル・ジュガのアルメニア人居留の歴史

アルカイブでの研究；

アルメニア科学アカデミーのアルカイブ

アルメニア国立図書館

マテナダラン (古文書収蔵館)

フランス国立図書館

フランス外交委員会アルカイブ 1992-99 年

英国国立图书馆 1994 年

ヴェネツィア市立アルカイブ

ムヒタリスト組合教会アルカイブ

ヴァティカン非公開アルカイブ

ローマ「プロパガンダ・フィデイ」アルカイブ 1994、96,97年

著作および論文；

- ① オランダのアルメニア人居留地と民族解放の精神 『16-18 世紀における独立運動と居留地』 イェレヴァン, 1989, pp.116-139.
- ② “Flux et reflux de la diaspora” - <Notre histoire>, 1992, No.94, pp48-51.
- ③ 17～18 世紀アルメニア・ヨーロッパの関係 「ヨーロッパ人の著作による 13-18 世紀のアルメニア民族の歴史問題」 Vol.1 政治史 イェレヴァン 1992 年 pp.249-347
M・カラペティアンと共著
- ④ コルネリ・ル・ブリュインの『旅行記』によるノル・ジュガのアルメニア人居留地「イラン・ナーメ」No.4, 5, イェレヴァン, 1993.
- ⑤ アルメニア人居留地の歴史研究の史料としてのコルネリ・ル・ブリュインの『旅行記』リスボン, 1996, pp.122 - 145
- ⑥ レヴュー Francis Richard. <Raphael du Mans, missionnaire en Perse au XVIIe

s) . I, Biographie, Correspondance; II, Estas et Memoire, Paris: Societe d'Histoire de l'Orient, Edition l'Harmattan(Moyen Orient & Ocean Indien XVIe - XIXs., t, 9), 1996, No.1-2, pp.364-369.

ほか 5 点

国際会議：

17-18 世紀ロシアのアルメニア交易商の交易ルート.

東西を結ぶアルメニア・・・3000 年の文明 パリ国立図書館,1996 年

ペルシャにおけるアルメニア人商人の家系と彼らの国際的移動

「東部系ユダヤ人、アルメニア人とキリスト教徒—ディアスポラの類型」 モンペリエ、1999 年。

以上

● ՀԱՅՈՑ ԱՌԵՒՏՐԻ ԵՒ ՏՆՏԵՍԱԿԱՆ ՊԱՏՄՈՒԹՅԱՆ ԱՂԲՅՈՒՐՆԵՐԸ

17-18-րդ դարերի հայ առևտրական կապիտալի պատմության ուսումնասիրության համար կարևորագույն նշանակություն ունեն մասնագիտական բնույթի որոշ աղբյուրներ.

1. Կոստանդ Ջուղայեցու «Լասն նորահաս մանկանց եւ երիտասարդաց վաճառականաց խրատ» (կոչված նաեւ «Աշխարհաժողով») աշխատությունը։ Այն շարադրված է 1685 թ. Նոր Ջուղայում (Մատենադարան, թիվ 10704 ձեռագիր, անտիպ)։

2. Տեր Դավթի որդի Հովհաննես Ջուղայեցու 1682-1693 թթ. Իրանում, Հնդկաստանում, Նեպալում եւ Տիբեթում գրված «Հաշվետումարը» (Լիսաբոնի Ազգային գրադարան, թիվ 7970 ձեռագիր)։

3. Ղուկաս Վանանդեցի, Գանձ չափոյ, կշռոյ, թւոյ եւ դրամից բոլոր աշխարհի, Ամստերդամ, 1699

4. Գասպար Ծեղրիմանյանի «Հաշվեմատյանը» (1670-1710), (Վենետիկ, Սուրբ Ղազարի Մխիթարյան միաբանության դիվան, ձեռագիր թիվ 1801-1802, անտիպ)։

5. Ծախվելու որդի Սարիադի հաշվեմատյանը, գրանցված է 1711-1718 թթ. Իրանում, Ռուսաստանում, Հոլանդիայում (Մատենադարան, թիվ 6241 ձեռագիր)։

6. Եղիա Կարնեցու տնտեսական բնույթի նամակներ, հաշվետումարներ եւ նրա անձնական գործերի մեջ պահվող այլ փաստաթղթեր, որոնք ընդգրկում են 1711-1725 թթ.։ (Մոսկվա, Ռուսաստանի արտաքին քաղաքականության արխիվ, «Ռուսաստանի կապերը Հայաստանի հետ» ֆոնդ, անտիպ)։

7. Նազարեթի որդիներ Հարություն, Աղազար եւ Մանուկ Լազարյանների առևտրական ընկերության «Ռուզնամա» (Օրագիր) կոչվող հաշվեմատյանը, որ կազմել է Հարությունը 1741-1759 թթ. Սպահանում, Ռեշտում, Աստրախանում, Մոսկվայում եւ Պետերբուրգում

(Մատենադարան, Լազարյանների ֆոնդ, թղթ. թիվ 101, գործ 123, փավերագիր թիվ 1):

8. Հարություն Լազարյանի 1744-1745 թթ. Մոսկվայից գրած 100-ից ավելի նամակների սեւագիր օրինակների ժողովածուն (Մատենադարան, թիվ 6240, անտիպ):

9. Հայերեն պարտամուրհակներ, փոխանցագրեր, վարկային տարբեր բնույթի փաստաթղթեր, կտակներ եւ նման այլ գրություններ՝ շարադրված XVIII դ. առաջին կեսին Նոր Ջուղայում, Սուրաթում, Մադրասում, Կալկաթայում, Բասրայում եւ այլ առեւտրական կենտրոններում ու խոշոր քաղաքներում (Բրիտանական գրադարան, O. P. B. Landsdowne, համար 1047-1048, անտիպ):

10. «Աստրախանի հայոց դատաստանագիրքը», որի մի քանի բաժինները, հատկապես 4րդ գլուխը՝ «Ասան սանադիս», 5րդը՝ «Ասան բարաթի» պարունակում են հետաքրքրական նյութեր, որոնց մեջ առկա են նաեւ պարտամուրհակների եւ վարկային գործարքների օրինակելի ձեւեր:

11. XVII-XVIII դդ. հայ առևտրական տնտեսական հարաբերությունների փաստաթղթերի ժողովածուները, որոնք շրջանառության մեջ են դնում բազմաթիվ արժեքավոր տվյալներ կապված Ռուսաստանի, Անդրկովկասի եւ Իրանի հետ:

12. Հայ վաճառականների նոտարական եւ վաճառականական ակտեր (նոտ 1000 փաստաթուղթ), 350 կտակները Վենետիկի, Ջենովայի, Լիվոռնոյի, Ֆլորենցիայի պետական արխիվներից (անտիպ):

13. Հնդկաստանի, Իսպանիայի, Պորտուգալիայի, Հոլանդիայի, Ռուսաստանի մաքսային մատյանները (մասնակիորեն անտիպ):

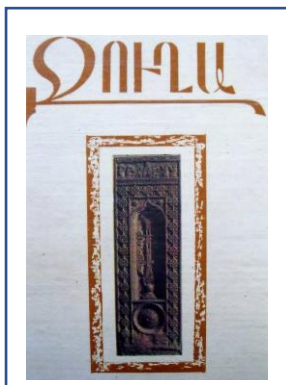
以上。

ご参考：1. JUGHA に関するメモ

2. 写真でみるタジリヤンさんの7日間（5月24日～30日）

1. JUGHA に関するメモ

2008.03.03 付 日本アルメニア友好協会



ジュガは現在、ナヒチェヴァン自治共和国 Djulfa 地区の Jugha 村近郊にある。歴史上、

ナヒチェヴァン、ヴァスプラカンに属した。

10～13 世紀 町に成長した。5～17 世紀 **Jugha** と呼ばれてきた。

15～17 世紀：“繁栄せる交易センター・ジュガ”に発展。

ジュガ商人 “**Jughaites**”。自称 “**Khojas**”。

標高 700m 地点に、東西 2km、山とアラクス川に挟まれた幅 500m の土地。

16 世紀：アルメニア人世帯数は 2000～4000 戸。1 万 5000-2 万～4 万人。

アルメニア人のみ。（1604 年夏、ポルトガル人旅行家 **Pelshior** の叙述）

（1605 年：ペルシャのシャー・アッバースは、オスマン・テュルクに対する戦略としてアルメニア人強制連行・地域の破壊等の焦土作戦を採った。王は、生存アルメニア人をイスファハーンの南郊、ザヤンデ・ルードウの対岸に居留させた。→ **Nor Jugha** の形成）

17～20 世紀：ジュガは、イスファハーンに形成された居留地 **Nor Jugha** と区別するため、**Hin(Old)Jugha** と呼ばれた。史家、旅行家は **Djoulf**a と呼んだ（イランではジョルファー）。

1589 年 **Hakob Jughayetsi**（15～16 世紀の細密絵画家）は、ジュガを「信仰の都市」と形容。

16 世紀、ヴェネツィア商人と提携していたアルメニア商人 250 人のうち、約 60 人が “**Jughaites**” で、彼らは、とりわけ絹の輸出を取り仕切っていた。欧州からは、毛やその他の商品を輸入した。

なお、ヴェネツィアには「ジュガ商人通り」名称があった。

アムステルダム：

アレppo：1563 年、ヴェネツィア商人が当地で初めて出会ったのは、ジュガのアルメニア商人 “**Jughaites**” であった。

12～13 世紀に建造されたキャラヴァンセライ **caravanserai** と見られてきた残骸は、アラクス川と鉄道（イエレヴァン＝バクー間）との間にある。長さ 37 メートルの矩形の建物であったが、主要部分は現在廃墟となっている。

これに似たキャラヴァンセライがアラクス川対岸（右岸・イラン側）にあつて、完全な複合体として残されてきた。橋が、二つのセライを結びつけていた。その跡は今日も見られる。橋が破壊された後は、19 世紀～1910-15 年まで、フェリー・ボートが運航されていた。橋のアーチは、高さ 37 メートル、幅 3 メートルであった。クルド人史家 **Sharif Bek** がこの橋に言及したところによれば、橋は、1400 年または 1500 年までに造られた。市民のジュガ追放時点まで橋はあった、と。

Jugha を通過した旅行者、**Tavernier**（1655 年）、**Chardin**（1673 年）、**Tournefort**（1700 年）は、その時点で橋は壊れたままの状態であったと記述しているとのこと。

以下は、参考写真等です。



ハチカル群越しにアラクス川下流を望む



アラクス川上流から



同下流から。

手前はジョルファ（左：イラン）とジュルファを結ぶ現在の橋梁

近年 破壊された文化遺産



Hin(Old) Jugha by Aram Vruyr, 1915



アゼリ兵士による破壊



2005.12 Final Annihi



2006 年 1 月 最末期の破砕作業



アラクス川へ碎石を抛り込む



2006 年 3 月 射撃場にされてしまった



対岸（イラン側）から文化遺産の破壊の跡
につき説明を受けるユネスコ要員



手前にはイラン側の道路と構造物跡が
みえる

2. タジリヤンさんの7日間（5月24日～30日）



① スバルホールでの講演（24日）



② 民族舞踊を楽しんだあと（同左）



③ 北川誠一 東北大学大学院教授
および スタッフの皆さんと（25日）



④ 浅草雷門で（26日）



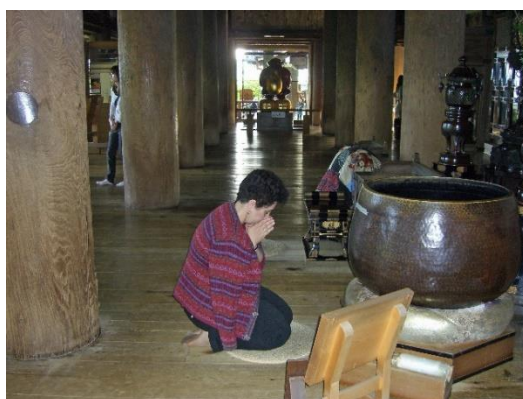
⑤ 東大東洋文化研究所で (27 日)



⑥ 聴講者の皆さん (同左)



⑦ 鎌倉で (28 日)



⑧ 京都清水寺で



⑨ 追手門学院大学の公開ゼミで (30 日)



⑩ 重松伸司 追手門学院大学教授 (右) と